



Title	和歌
Author(s)	仲田, 應弘
Citation	懷徳. 1933, 11, p. 115-116
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88899
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

歌

藤 塚 紅 果

炎 天 の 鋸 の 音 し て 造 船 所
夏 木 立 大 佛 殿 の 薨 か な
夏 草 に 交 り 石 竹 朝 の 色
祇 園 出 て 日 傘 何 處 ま で 語 り 行 く
餌 に た か る 鹿 持 て あ ま す 日 傘 哉

夏 日 小 詠

仲 田 應 弘

住友本社二首

街頭を歩み來りし記憶なし三階の廊下に居りつゝ涼し
應接室にお茶をぞ運び來りたるボーイは扇風器すぐかけ呉れつ

歌

濱地氏邸二首

屋上の朝顔の鉢見まはるに蒸しあつくして下肥匂ふ
夕暗く雨あがりたる屋上に朝日新聞の照明燈廻る

瓶原、内藤博士邸一首

道端の桑の實を食ひつゝぞ來つ人々いこふ家に至りぬ

○

油蟬はなちやりたる庭の木に今朝もいらしく鳴立てり
蚊帳中に蚊を焼きぬつゝ蒸熱し外の明るみに蟬鳴きそむる

稻束聽松翁の遺愛書畫展一首

半江の米法の墨うき立ちて時をへだてぬ新しさ持つ

○

たまさかに步める友に云ふことなしセメント匂ふ道路横ぎる

雙林寺

あづまやの廂の下りなだらかに古びしまゝに人遊ぶなき

井上睦子氏

夜の更けの電車に君の乗り來しが君の後ろに其の母のをり